

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

## I. 調 査 要 領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成30年4月13日

(2) 調査対象期間 平成30年1月～3月期実績および平成30年4月～6月期見通しについて調査した。

### 2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

### 3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	23社	76.6%
建設業	30社	22社	73.3%
卸売業	30社	22社	73.3%
小売業	35社	21社	60.0%
サービス業	25社	18社	72.0%
合計	150社	106社	70.6%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## Ⅱ．概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

平成29年度第Ⅳ四半期<平成30年1月～3月>の北見市における業況は、前年同期比で「好転企業」17.9%、「悪化企業」32.1%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△14.2となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期0.9→今期△14.2と15.1ポイントの悪化を示しています。また、前期<29年度第Ⅲ四半期>との比較では、前期△14.3→今回△14.2と0.1ポイントの好転となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△8.7、建設業D・I値△13.7、卸売業D・I値△22.8、小売業D・I値4.8、サービス業D・I値△33.3となっており、前年同期調査と比較すると、小売業で17.9ポイントの大幅な好転となった一方、製造業23.1ポイント、建設業40.9ポイント、卸売業で14.2ポイント、サービス業で15.6ポイントのそれぞれ大幅な悪化となりました。

特に、建設業ではD・I値40.9ポイントの大幅な悪化傾向を示し、プラスからマイナスへ転じる結果となりました。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」12.3%、「悪化企業」34.0%でD・I値△21.7と、前年同期見通し(△15.1)に比べ6.6ポイントの悪化傾向を示し、厳しい状況が続く来期見通しとなっております。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製造業	生産高	前年比で「増加企業」17.4%、「減少企業」21.7%、D・I値△4.3と前年同期に比べ13.8ポイントの悪化傾向を示しました。
	採算	前年比で「好転企業」21.7%、「悪化企業」26.1%、D・I値△4.4と前年同期より10.0ポイントの好転傾向となりました。
	来期見通し	業況D・I値△8.7、生産高D・I値△4.3、資金繰りD・I値△17.4と前年同期に比べ、業況と生産高で好転傾向を示しているものの、依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

## 2) 建設業

**完成工事高** 前年比で「増加企業」36.4%、「減少企業」40.9%、D・I値△4.5と、前年同期に比べ9.1ポイントの悪化傾向を示し、プラスからマイナスへ転じる結果となりました。

**採算** 前年比で「好転企業」13.6%、「悪化企業」36.4% D・I値△22.8と前年同期に比べ36.5ポイントの大幅な悪化傾向を示し、プラスからマイナスへ転じる結果となりました。

**来期見通し** 業況D・I値△27.3、完成工事高D・I値△27.3、資金繰りD・I値△31.9と前年同期に比べ、全て大幅な悪化傾向を示し、厳しさが伺える来期見通しとなっています

## 3) 卸売業

**売上高** 前年比で「増加企業」18.2%「減少企業」45.5%、D・I値△27.3と前年同期に比べ18.6ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

**採算** 前年比で「好転企業」13.6%、「悪化企業」27.3%、D・I値△13.7と前年同期に比べ3.7ポイントの好転傾向を示しました。

**来期見通し** 業況D・I値△31.9、売上高D・I値△31.8、資金繰りD・I値△4.5と、前年同期に比べ全て悪化傾向を示し依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

## 4) 小売業

**売上高** 前年比で「増加企業」19.0%「減少企業」23.8%、D・I値△4.8と前年同期と比べて4.8ポイントの悪化傾向を示しました。

**採算** 前年比で「好転企業」19.0%「悪化企業」14.3%、D・I値△4.7と前年同期と比べて13.5ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

**来期見通し** 業況D・I値△9.6、売上高D・I値△9.6、資金繰りD・I値△9.5と前年同期に比べ全てで若干の好転傾向を示しており、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなっています。

## 5) サービス業

### 売上高

前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」38.9%、D・I値△22.2と前年同期と比べ16.3ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

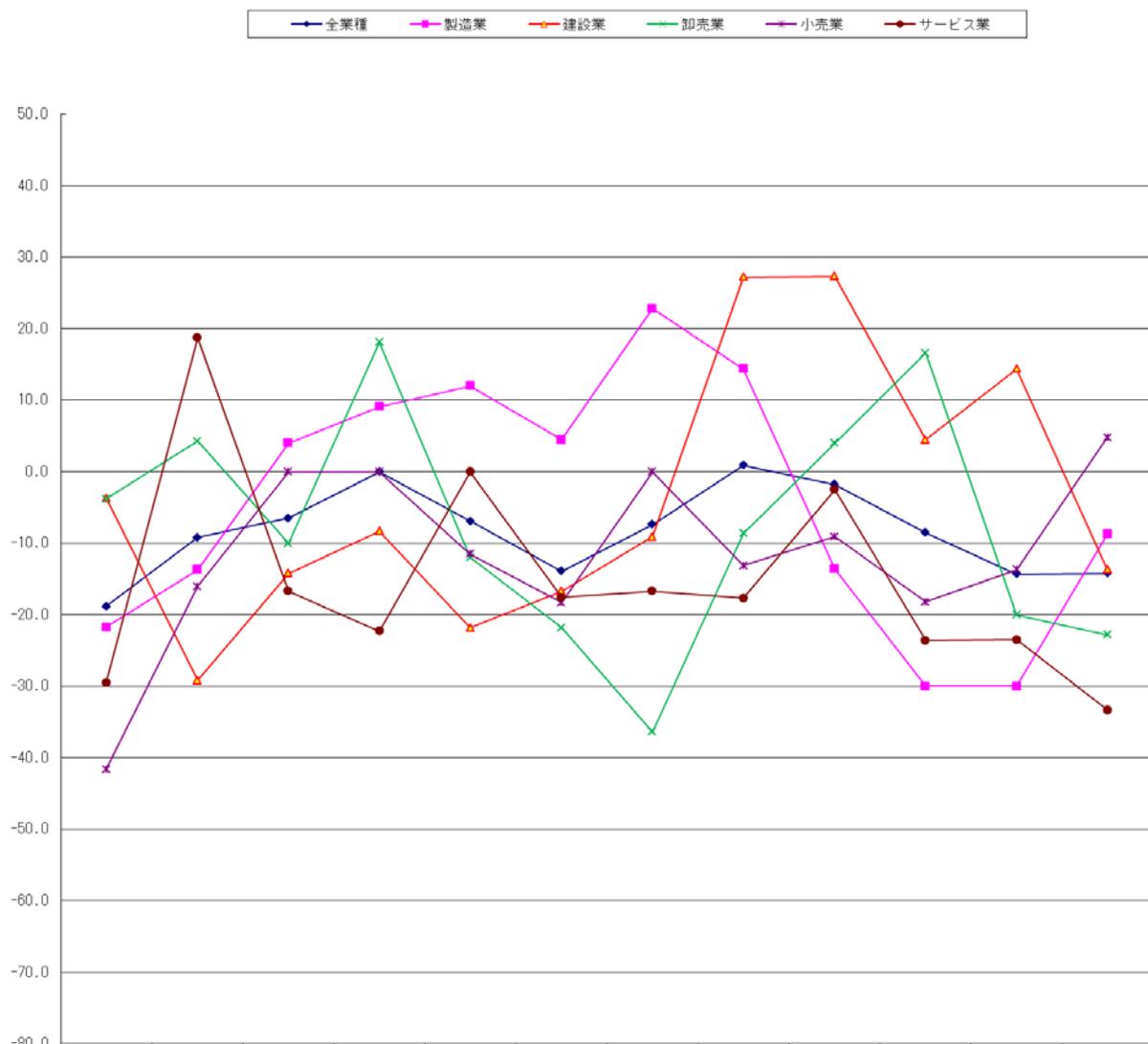
### 採算

前年比で「好転企業」5.6%、「悪化企業」44.4%、D・I値△38.8と前年同期から15.3ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

### 来期見通し

業況D・I値△33.3、売上高D・I値△27.8、資金繰りD・I値△33.3と、前年同期に比べ全て悪化傾向を示し依然として厳しさが伺える来期見通しとなっています。

### 業況（前年同期比）



	27.4~6 27年度I	27.7~9 27年度II	27.10~12 27年度III	28.1~3 27年度IV	28.4~6 28年度I	28.7~9 28年度II	28.10~12 28年度III	29.1~3 28年度IV	29.4~6 29年度I	29.7~9 29年度II	29.10~12 29年度III	30.1~3 29年度IV
◆ 全業種	-18.8	-9.2	-6.5	0.0	-6.9	-13.9	-7.4	0.9	-1.8	-8.5	-14.3	-14.2
◆ 製造業	-21.7	-13.7	4.0	9.1	12.0	4.5	22.8	14.4	-13.6	-30.0	-30.0	-8.7
◆ 建設業	-3.7	-29.2	-14.2	-8.3	-21.8	-16.7	-9.1	27.2	27.3	4.5	14.4	-13.7
◆ 卸売業	-3.8	4.3	-10.0	18.1	-12.0	-21.8	-36.4	-8.6	4.0	16.6	-20.0	-22.8
◆ 小売業	-41.6	-16.0	0.0	0.0	-11.5	-18.3	0.0	-13.1	-9.1	-18.2	-13.7	4.8
◆ サービス業	-29.5	18.7	-16.7	-22.3	0.0	-17.6	-16.7	-17.7	-2.5	-23.6	-23.5	-33.3

## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	人 件 費 増	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	得 意 先 減 少	人 件 費 増	諸 経 費 増	同業者間の競合
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 材 不 足	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	同業者間の競合	得 意 先 減 少
合 計	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種で見ると、「人材不足」がトップとなり、5期連続「人材不足」が深刻な問題点として挙げられ、以下「諸経費増」「人件費増」の順となっている。

また、業種別でみると卸売業では「同業者間の競合」、サービス業では「諸経費増」が挙げられ、さらに「得意先減少」が全業種通して上位に上がってきており、深刻化してきている。

### ※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○下水道マンホール蓋等の減少 (鋳物製品製造)

○人材不足と働き方改革に依る人件費増 (金属製品製造)

(建設) ○従業員の高齢化 (土木・建築)

○得意先の人手不足 (鋼材)

(卸売) ○物価・人件費・諸経費の上昇に対し、医療介護費抑制で更に業界の経営環境は厳しさが増す事も予想される (医療用品卸売)

○価格競争による利益の低下 (飼料卸売)

(サービス) ○店主並びに従業員の高齢化 (飲食業)

○原材料費の値上がり (飲食業)

## 業況

- 製造業 ⇒ 好転（飲料、木製家具、石工品、一般機械）  
悪化（農産物加工品、造作材、一般製材、印刷、建築用金属製品）
- 建設業 ⇒ 悪化（冷暖房設備、管工事、金属製屋根、給排水設備）
- 卸売業 ⇒ 好転（鉄鋼、事務用機械）  
悪化（製菓・製パン、酒、家電、建設資材、自動車部品、医療用品、玩具、建築材料）
- 小売業 ⇒ 好転（菓子、家電、介護用品、スポーツ用品）  
悪化（酒、時計、米、鮮魚）
- サービス業 ⇒ 好転（クリーニング）  
悪化（ホテル、寿司、建物清掃、理容）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）